

## 播磨造船所忠魂碑建立を伝える新聞記事



I H I 構内の藤戸にある播磨造船所忠魂碑

2013年秋、JMUアムテック事務所前の山の斜面の木々を伐採した際、忠魂碑があることがわかりました。忠魂碑の裏には、昭和13年4月から5月にかけて支那事変で戦死した四名の銘板と建立に至る説明文があります。

「本礎石は当工場創立以来の船渠開門口戸当石なりしか昭和8年に船渠改修工事に際し取り外し昭和9年5月茲に加工建設したるものなり」

戦前相生で発行されていた地域紙、相生時報・第48号(昭和9年6月27日発行)は、忠魂碑除幕式の様子を紹介しています。

帝国在郷軍人ハリマ分会 総会と射撃成績

相生町播磨造船所在郷軍人分会は、去る17日午前7時から藤戸貯水池土手に於て総会を開き勅諭奉読及び事業報告を終り、午前10時から忠魂碑除幕式を開催した。その式次は型

の如くで、六岡分会長の式辞に次ぎ左記来賓中より祝辞があつて、午前11時、盛大に閉式を告げた。

姫路連隊区安永少佐　同じく新賀曹長　海軍大尉吉井五郎氏  
海軍監督官　造船所重役　木下聯合分会長　相生町長　那波町長  
秋山相生青調主事　桑名署長　酒井　尾川両記者　其他

閉式に当り、六岡分会長は

「此碑は名誉の戦死者中村祐介君を祀り、碑文は荒木陸軍大臣の謹書であり、碑柱及材料は当工場重役の篤志により、地所は相生町の諒解で買受け、手続きその他は警察署の迅速によるもので、工事は会員の努力奉仕により今日の盛典を見た。誠に欣幸とします」

と報告を兼ね挨拶があつた。因みに碑は高さ一丈四尺、巾三尺五寸で元ドックの戸当石で明治中代から功績を残した石で、相生町鷺ヶ巣5308番貯水池に建設してある。

(読みやすくするため漢字の一部を仮名にしています)

相生時報は、昭和9(1934)年時点での戦死者1名の氏名を伝えていますが、現在残っている銘板は碑が建立された後に戦死した4名のもので、銘板は1枚の金属板に1名ずつ刻んでいく形式のため、最終的に何名の銘板が掛けられたのかは不明です。

時系列で整理しますと、

1931(S06)年　9月　柳条湖事件から満州事変が始まる

1932(S07)年　3月　満州国建国　　5月　五・一五事件　犬養首相暗殺

1933(S08)年　1月　ナチス政権成立　　3月　日本、国際連盟脱退

建立されたとき、播磨造船所忠魂碑は満州事変の戦死者と推定される1名を祀るためのものでした。その忠魂碑に、1937年に始まる支那事変の戦死者・1941年に始まる太平洋戦争の戦死者が加わっていくとは予想もしなかったことでしょう。



1912年、完成した播磨造船の船渠

播磨造船所の忠魂碑は、播磨船渠が60ヶ月をかけて苦勞の末に完成させた最初のドックに使われていた御影石を碑石として使用しています。村人はこの船渠を「わしらのドック」と呼んだと伝えられており、忠魂碑は相生の造船業の発祥を伝える史蹟としても貴重なものです。